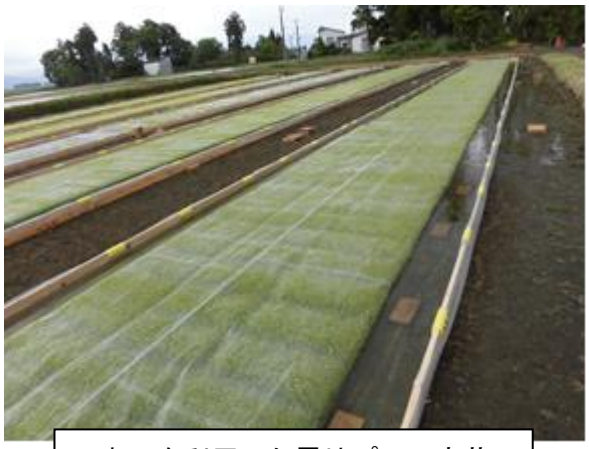
営農レポート
Ｎｉｉｇａｔａ
令和３年１月１８日
発行：JA/JA全農にいがた

水稲の健苗育成のポイント！

「苗半作」と言われ、健康な苗を育成することは昔から重要視されてきました。しかし、経営規模の拡大によって、播種から田植えをするまでの期間が大幅に伸びている事例が多く、老化苗や徒長苗が植えられています。老化苗や徒長苗は、活着するまで時間がかかったり、除草剤の影響を受けやすくなったりします。また、強風や低温になった場合に、分げつの発生が遅れて、収量にまで影響します。

そこで、健苗を育成するためのポイントをまとめてみました。



水田を利用した露地プール育苗

１．作業スケジュールに合わせた苗の大きさ

稚苗の播種時期をずらして２回転すれば、田植え期間が長くできますが、播種作業を１回にしたいとなれば、中苗を取り入れることです。

播種から田植えが長くなる場合は、中苗を選択することにより、老化や徒長を防ぐことができます。ただし、10ａ当たりの必要箱数が増加し、育苗面積も増加します。そこで、稚苗を播種するとき、遅く田植えする圃場分だけ、播種量を減らして中苗にします。

表１　苗の種類と播種量・育苗期間・苗の特徴

種　類	播種量(乾籾)	育苗期間	10a 必要箱数	苗の特徴
中 苗	80～100g	30～35 日	25～30 箱	低温管理で老化・徒長しにくい
稚 苗	130～160g	18～25 日	18～20 箱	25 日以上で老化が徐々に進む
高密度播種苗（密苗）	250～300g	14～20 日	6～10 箱	急激に老化・徒長しやすい

※掲載内容の無断使用・転載を禁じます。

２．稚苗をできるだけ長く田植えをする場合

稚苗のみで対応する場合は、遅く田植えする苗の徒長を抑えるために、播種量を 130g 程度とします。かつ中苗並びに第１葉鞘長３㎝以下にするために、緑化を早めに終了し、稚苗よりやや低温で管理します。なお、５月に育苗する場合は露地で育苗することで高温を避けられます。そして、葉色が低下しないように追肥をします。

３．徒長させない硬化苗をつくる

稚苗の徒長防止には、ハウス内の温度を上げないことですが、遅い田植えをする時期は、気温が高くなります。育苗後半に徒長させない方法は、前述のとおり第１葉鞘長を短くするために、やや低温で管理するとともに、そのうえに、苗をローラー掛けする方法です。詳しくは、下記のホームページで紹介されています。

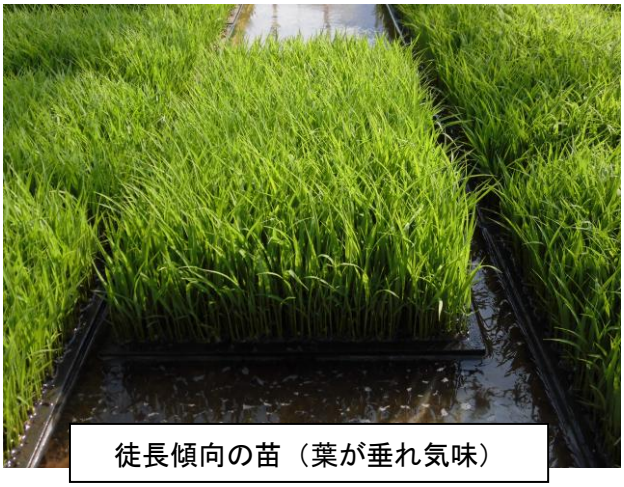
㈱美善　健苗ローラーKBR-15W

https://www.kk-bizen.jp/product_introduction/seedlings/naeroller/

ＪＡ全農にいがたでも取り扱っていますので、ＪＡにお問い合わせください。

４．高密度播種移植栽培の留意点

高密度播種（密苗）に取り組む人も増加していますが、播種量が多いため、育苗期間が長くなると、急激に徒長・老化が進みます。



徒長傾向の苗（葉が垂れ気味）

高密度播種ではプール育苗をお勧めします。湛水後は昼夜ともハウスを全開し、徒長を防止します。プール育苗以外でも換気を十分に行い、好天時は早朝から夕方遅くまでハウスを開けます。田植の５～７日前には終日ハウスを全開します。

また、田植の３日位前にはチッソ成分で１～２ｇ/箱の追肥を行います。田植の目安は次のとおりですが、植遅れにより徒長苗や老化苗にならないようにしましょう。

【田植適期のめやす】　播種後 14～20 日、草丈 10～14 ㎝、葉齢 1.8～２葉

（担い手・営農支援部　担い手・営農支援課）

※掲載内容の無断使用・転載を禁じます。